

立命館アジア太平洋大学 第3回 学長候補者選考委員会議事録

日 時 : 2025年12月23日(火) 18時00分～18時52分

場 所 : APU本部棟3階 第5会議室(ZOOM接続あり)

委 員 : 委員長 浅野 昭人(副学長・常務理事)
委員 陳 慶昌(アジア太平洋学部 教授)
VYAS Utpal(アジア太平洋学部 准教授)
柳 ボスル(国際経営学部 准教授)
福山 公博(国際経営学部 准教授)
四本 幸夫(サステイナビリティ観光学部 教授)
山根 友美(サステイナビリティ観光学部 准教授)
JUNG Jonghee(言語教育センター 准教授)
鶴原 利泰(教育開発・学修支援センター 准教授)
日野 智志(立命館アジア太平洋大学事務局 次長)
金剛 理恵(アウトリーチ・リサーチ・オフィス 課長補佐)
寺井 俊裕(アウトリーチ・リサーチ・オフィス 課長補佐)
朴 勝優(アカデミック・オフィス 課長補佐)
眞次 純一(校友)
UWINEZA CELINE(校友)
ABDULLAH Junaid(校友)
JHAASHMI(在校生 特命副学長)
荒牧 順子(APU国内学生後援会)

選考管理委員 : 吉川 卓郎(委員長)、ACKARADEJRUANGSRI P.、宮原 久実

事務局 : 井上 智香子(立命館アジア太平洋大学事務局 副事務局長)、
藤原 将人(全学企画オフィス 課長)、小鶴 恭子(全学企画オフィス 職員)

※ 下線は欠席者

(委員18名、出席者16名、委員会成立)

(議事録署名人: 山根 友美、JUNG Jonghee)

.....

【議題】

1. 学長候補者選考の公募要項について

浅野委員長より、前回の委員会で寄せられた意見を反映した公募要項(案)について説明が行われた。

(UWINEZA) 校友会活動について要件になぜ記載することができないのか。また、選考時にどのように評価する予定か。

(浅野) 校友会への支援や校友会との連携は重要であると理解しているが、様々なステークホルダーも同様の課題があるため校友会のみを要件として記載するのはどうかと考えている。候補者が校友会への支援や連携の重要性について認識しているかは面接選考で尋ねる。

(眞次) 校友会ネットワークのデータベース作成に関して、課題感を持っている。ネットワーク強化はAPU2030ビジョンに盛り込まれているが盛り込むだけでは実現は困難だと感じている。そのため、選考プロセスの中で、次期学長が本件についてどのような実現していくかについて質問したい。

- (浅野) 大学としても校友とのつながりをどのようにシステム化していくか、同時に、校友のライフステージに合わせた大学とのつながりをどのように強化していくのか大変重要だと認識している。本件を候補者選考の一つのポイントとして選考することについては同意する。面接の場で候補者に質問することは十分可能である。
- (鶴原) 生年月日の取得は必要か。また、連絡先住所は、特に、日本の住所は記載してもらえるのか。
- (浅野) 選考委員の意見を聞いた上で判断する。住所は、日本であれば市までにとどめるなどもあり得る。事務局の提案として、候補者に市町村・番地まで記載をお願いしたいという趣旨である。
- (鶴原) 生年月日は面接で確認してはどうか。
- (浅野) 他の選考委員の意見も聞いた上で判断する。
- (UWINEZA) 校友会について公募要項案に明記できるならしてほしい。記載することで、校友会を意識していない候補者としている候補者で有利・不利が生じないからである。また、ステークホルダーではなく、できれば校友会と記載してほしい。
- (浅野) 強い反対意見がなければ、校友会との連携を重視する点を「学長に求める役割」のところに記載する。
- (朴) 「学長に求める役割」にはステークホルダー全般に対する記載がよいのではないか。
- (眞次) 英語圏と日本語圏で捉え方が異なる。英語圏の場合は確実に詳細を書かないと任期終了後に評価ができない。一方で、日本人としては、この文言のみを言及するのはバランスが悪い。また、面接では、強くデータベースのビジョンをどのように描くかを質問してほしい。立命館は LinkedIn と NTT と共同でデータベース化すると聞いた。APU では立命館と共同で実施するのか、独自で作り上げるのか、校友会は APU の価値を高めるために重要である。
- (浅野) 国内外の大学行政機関、企業、社会、地域社会の後ろに校友・父母の記載のみ記載するのはバランスが悪いので「～と関連する機関等のステークホルダーとの良好な関係を築く」のような記載でどうか。
- (JHA) 個人的な意見だが、学長に生年月日を尋ねることは問題ないと思われる。
- (JUNG) 生年月日を尋ねる尋ねないどちらも一理ある。現状の本学の教員採用などは生年月日を尋ねていることを考えれば今回は現状通り候補者に尋ねて、今後議論してはどうか。
- (浅野) 正解があるものではないため最終的に委員の意見で決定したい。
- (UWINEZA) 生年月日はこのままで良いと思われる。また、性別を尋ねない理由はなぜか。
- (浅野) 性別は選考に必要ないと考え、前回に引き続き今回も尋ねないこととした。青年月日に関してこのまま質問項目として残してよいのではないかという意見が多いようだが、鶴原先生、いかがでしょうか。
- (鶴原) このまま進めて構わない。
- (浅野) 生年月日は質問項目として残すことにする。住所は連絡を取る必要があるため候補者に尋ねることについてご理解賜りたい。

2. 公聴会について

- (浅野) 公聴会について事務的な箇所を修正している。資料をご確認ください。
- (JUNG) 公聴会後の意見集約はどのように取り扱うか。
- (浅野) 事務局で整理し、似た質問はまとめるが全件に対する回答を一覧にする。次回の委員会では、その一覧と修正案を反映させた公募要項案について意見を

いただく。

3. その他（公募要項の発出先について）

事務局より口頭で前回の学長候補者選考時の公募要項発出先について説明が行われた。

（事務局） 前回の学長候補者選考では本学ホームページ以外に JREC-IN、Chronicle、Higher Edjobs、THE 4 つの広告媒体に公募を掲載した。